

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1092300043 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 上野村社会福祉協議会 | | |
| 事業所名 | 認知症対応型共同生活 グループホームひだまり | | |
| 所在地 | 群馬県多野郡上野村大字乙父630-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年11月24日 | 評価結果市町村受理日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

上野村において地域密着サービスは必要不可欠です、なぜなら人口1,300人あまりの小さな村で今後の包括的ケアを推進する上でも重要な役割を担っています、村の高齢者はみなさん顔なじみで介護サービスを友達といっしょに利用したいと考えている人も多いようです。利用者のニーズに関してはほとんど受け入れるよう配慮しております、開設3年が経過してようやく地域の人々に理解され又期待されるようになりました。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構 | | |
| 所在地 | 群馬県前橋市新前橋町13-12 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年1月16日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自治体が運営する保健・医療・福祉サービスの拠点である「いこいの里」の一隅にあり、認知症高齢者とその家族、それを取り巻く地域住民等の生活を支える要石となっている。事業所の関係者及び関連施設で組織された会議が毎月開かれることにより、地域の中で様々な社会資源と一体となって円滑かつ機能的、効率的にサービス提供を展開している。特に、利用者や職員が日頃から地域の商店や広場へ出掛けたり、地域住民が事業所を訪れたりする関係性が築かれていることから、地域に根差した、地域と融和した活動にまで発展している。また、事業所は働きやすい職場を目指し、職員が意見を言えるような環境づくりを行い、理念の見直しや検食の実施、男女対等のケア内容や勤務体制を変えるなど職員の意見を活かした取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 基本理念を振り返り、職員全員で話し合い共有した、理念を見直し、作り上げて実行しています。 | 管理者は、職員アンケートを行いケア会議の中で検討し、理念を見直し作り変えている。職員は、申し送りやミーティング・ケア会議にて、内容を確認し検討している。職員の理念の意識づけや言葉遣い等に変化がみられる等介護の実践につなげている。 | グループホーム独自の理念の作成を期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ひだまり、ふれあい便りなどを広報に掲載して周知していただくとともに、地域行事などに参加し交流を図っています。 | 散歩や外出時に近隣の方と話をしたり、デイケアや福祉センター・温泉等の利用者が事業所に立ち寄り、日常的にふれあいの機会は多い。季節毎に行われる地域の村祭り「十石市」に参加したり、「いこいの里」祭りの参加を村の人達に呼びかけ、地域住民の一員として交流を図っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 夏祭りの開催やボランティアの参加行事において地域住民とのコミュニケーションを図っています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 定期的に保健福祉課と家族・民生委員・医師・看護師・職員等で事業所独自の取り組み内容や具体的な課題を話し合い、運営に活かしています。 | 運営推進会議において、運営や料金・小規模多機能型居宅介護事業所との相違点・村の介護保険の現状等の話し合いが行われている。利用者の重症化やターミナル時の対応・インフルエンザ等の感染症対策等について意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。 | 利用者本人や家族、区長や老人会長等の参加メンバーなどを検討し、事業所独自で開催されることを期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 保健福祉課が併設されており、きめこまかい連絡と情報交換を日々行っています。保健、福祉、医療、連絡調整会議の開催など。 | 役場担当者とは、運営推進会議や連絡調整会議で顔を合わせる他、面談や電話にて事業所の現況報告や村の行事・事業の確認等を行っている。地域包括支援センターの職員も事業所に来所し、事業所の運営や介護保険サービス利用者等の情報交換を行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 基本的に身体拘束は一切しません。を共通の認識としています。 | 事業所は言葉や雰囲気による精神的・心理的な拘束を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は、拘束の意味や利用者への影響等を日々の業務やケア会議の中で確認し合っている。また、職員は内外の研修会に参加学習し、身体拘束への理解を図っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止、予防マニュアルを作成して職員に周知するとともに、利用者の身体、職員の態度等を管理しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在の利用者の中で生活保護の方がいて、成年後見人制度を活用しており、いつでも対応できるよう連絡を密にして制度そのものを勉強しています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約以前より家族の相談業務に取り組み、どのサービスが本人の為になるのか、検討して利用の際は十分な説明を行っています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 担当国会議等において家族の要望や、利用者への処遇改善事項を聞いて介護計画に反映しています。 | 利用者及び家族には介護計画の見直しや担当国会議に参加してもらい、意見や要望を聞きニーズの把握に努めている。ケアの仕方や介護用品の使い方の工夫・サービス利用料や預かり金の明示等、意見交換を行い運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 地域密着ケア会議の開催や社協全体会議などを開催して意見交換し現場に反映させています。 | 日々の業務をはじめ、月1回のケア会議と法人の全体会議等で、職員の意見や思いの把握を行っている。ケア会議では話しやすい雰囲気づくりを工夫し、職員による検食の実施・男女対等のケア内容や夜勤の勤務体制の見直し等、全職員で話し合い運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 労務条件としては、休日日数及び残業ゼロを掲げ処遇改善手当等給与面でも配慮しており、有休休暇取得率も希望に合ったものにしており、福祉業界の中でも働きやすい環境づくりがなされています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修の受講を行わせたり、他の事業所との期間限定職員研修などをとりいれて、資質向上を図っています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 施設見学や、特養などに研修に行き勉強させています、また村内の体験実習等を取りいれています。他市町村の施設見学の受け入れ実施。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 十分に本人と話し合い、不安や疑問点を職員一同で改善目標として、初期段階としては、共同生活に1日も早くなれるよう支援しています。コミュニケーションを重視 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の要望を聞くほか、サービスの内容説明、経済的負担の軽減等の問題に積極的に関与して、家族と事業者との信頼関係を築いています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 等事業所のほか、保健福祉課や介護事業全体で協議して最適なサービスを提供するよう心がけています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者個々の状況に対応しつつ、共同で行う作業等同じ立場の仕事も積極的に参加していただき、さりげなく、本人の出来ないことを支援しています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族との面会回数を多くとり、時間の許すかぎり利用者と家族の接する時間を作っています。又利用者の状態等定期的に家族に連絡しております。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 近所の面会や高齢者集合住宅の人の部屋などを訪ねたり、外部と接する機会を多くしています。 | 事業所の見学や居室に空きがある場合は試験的な宿泊をしてもらっている。生家や思い入れのある場所を車で通ったり、親類や顔馴染みの人の積極的な面会の受入れ、お盆や正月の数日間の自宅帰省等の取り組みを行い、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 幸い小さな村なため、ほとんどの利用者さんが顔みしりであり。利用者同士のコミュニケーションは非常に良いと感じます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ①事業所にとらわれず、社会福祉協議会として村内全体の高齢者への問題に取り組んでいます。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一連の介護にとらわれず、個々の思いを尊重したケアプランを作成して実行しています。 | 日常の会話や生活の中から、思いや意向の把握に努めている。意思表示の困難な人は、家族に暮らしぶりや趣味・特技を聞いたり、行動や表情から思いや希望を把握し、その実現に努めている。仕事の話を持ちかけたり、包丁研ぎをお願いしたり、本人本位に検討し楽しく過ごせるよう支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者の生い立ちや生活様式を考慮し入所以前の生活を守りながら、必要な支援を行っています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々のADLに合わせたケア方針を定め、最大限本人の有する能力を引き出す努力をしています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画を作成するたびに、担当者会議を開き、本人、家族、職員、その他必要な関係機関に参加していただき、介護計画を作成しています。 | モニタリングは月1回行い、担当者会議において利用者と家族から意見を聞くようにしている。家族の参加が難しい場合は、連絡ノートや記録ノートに記されている内容と職員意見等をケアマネジャーが検討して、計画作成している。利用者・家族に説明し、確認印を頂いている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の連絡(申し送り)等で必要な情報は共有して記録し、連絡ノートなどの活用をしています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 当日の予定行事や変更事項などは、柔軟に対応しています、特に外出や受診等の援助。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 村では昔ながらの行事がまだまだ多く残っており、干し柿づくりや、干し芋、とち餅、など地域の伝統行事を行い楽しんでいます。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 医療機関の連携は非常に重要な事柄であり、等施設では、主治医の往診が毎日なされ、緊急時の対応も的確になっており、十分な医療を受けられる様、支援しております。 | 村内はへき地診療の為、協力医療機関が主治医となり医師が毎日往診している。往診時の結果は家族に報告し、眼科や歯科等の専門医受診は、家族の希望する医療機関・提携医療機関へ予約を行う等適切な医療が受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職より情報が看護師につたえられ、管理者と状況把握して、適切な医療機関を受診できるよう配慮しています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には、病院のソーシャルワーカーと連絡を密にして、早期退院にむけた関係を保っています、又入院時の利用者の身の回りのフォローも行っています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した指針を定め、家族、医師、看護師、その他の関係者も踏まえ、ターミナルケアへの取り組みを、検討、実施に取り組んでいます。 | 入居時に、事業所が作成した「重度化の指針」や事業所の取り組みについて説明し、家族の希望・意向等を把握するようにしている。事業所は家族の希望により、終末期への取り組み姿勢はあるが看取り事例はない。職員、医師、看護師等とチームで支援に取り組めるよう方針の統一を図っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時における、対応マニュアルを作っているほか、心肺蘇生、やAEDなどの実施訓練等を行い職員に的確な対応を勉強させています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 管轄消防の指導のもと、地域の住民も踏まえた総合避難訓練の実施を消防計画のもと、とり行っています。夜間を想定した対応を近隣の人に周知しています。 | 消防署の指導の下、近隣住民と「いこいの里」全体で年2回昼夜を想定した避難訓練を行っている。緊急連絡網や避難計画等が整備されている。屋外の避難経路や災害物資の備蓄等については、役場との協力体制を築いている。 | 屋外の避難経路の確認、災害に備えた物品等を把握しておくことを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者の個々の人格を尊重した対応と、プライバシーを損ねない声かけを指導、守秘義務の徹底。 | 利用者一人ひとり敬意を表し名前はさんづけとし、本人の意に沿わないケアは提供しないようにしている。TPOに応じた言葉かけにも留意し、利用者個々の生活パターンを把握しつつ、拘束感を与えない自由な時間を過ごしてもらえるよう対応している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | さりげなく利用者の希望を聞きだし、行動決定を促し、行動の為の援助をするよう心がけています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 強要はしない、個人の気持ちに合わせて、決まりどりの介護はしないようにする、あくまで本人のペースに合わせた援助をしています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 希望があれば、美容院にも行き、衣服のコーディネートも本人と一緒に、理髪等も無償で行ってます。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事が厨房より配膳の為、台所に関してはおやつ作りなど軽作業にとどまっていますが、おやつなど極力共同作業で作って味わう楽しさをしています。 | 食事は、法人の厨房にて提供されている。職員と利用者でおやき・いも串・田楽・月見だんご等のおやつを手作りし、月1回の夕食作りには利用者の希望を取り入れ、蕎麦打ち・郷土料理や季節料理、外食を楽しんだり、楽しく食べられる工夫に努めている。 | 利用者と職員が同じテーブルを囲み一緒に食事を摂ることができるような取り組みに期待したい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスは栄養士のメニューにより管理されており、水分摂取量は記録に記入し、毎月体重測定など行い体重の増減を管理しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食事後はかならず口腔ケアを行っています、又歯科診療所の先生が毎週問題がある利用者の口腔診療しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄介助に関しては、全介助以外の利用者さんは個々の排泄パターンにおいて、トイレで排泄するよう努めています。 | 排泄チェックシートにて排泄状況を確認し、個々の排泄パターンに応じた声かけを行っている。排泄能力や筋力の維持のため利用者をトイレ誘導し、便座の位置や背もたれ部分を改良したシャワー付き便座を使用し、排泄の自立に向けた支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘に関しては、運動、食物繊維質、などの摂取などで工夫しているが、排泄チェック表などで、自然対応が出来ない場合、医師の指示に従う様にしています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 最低週3回を入浴の目安としているが、希望があれば、毎日お風呂にお湯ははって入浴できるよう準備してあります。 | 週3回の入浴を行っているが、入浴日以外でも希望者には毎日入れるよう対応している。季節感を楽しめるゆず湯、入浴剤による温泉湯、外気温や健康状態に応じての床暖房の設定、機械浴を行う等、入浴を安心して楽しめる工夫をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間など決めずに、利用者の体調、習慣に合わせた、リズムで就寝していただいています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者の既往歴や薬剤情報提供書をもとに、副作用などの症状の把握に注意して、利用者を観察しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者に日々の役割を決め、日課としての仕事のお手伝いをさせていただいております。個々の得意としている事柄を引き出し生活の中にとりいれています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出は常に自由に出かけられ、家族との外出は特に進んでしていただくよう心がけています。天気に応じて村内へは、良く出かけます。 | 桜や紫陽花、紅葉の季節を感じながら事業所の敷地内、村内外へ出掛けている。日曜日は散歩の日と位置付け、車椅子の利用者も近隣の商店や広場等へ出掛けている。常時の外出にも職員が同行し、近隣住民とも関係性が築かれ安全に出かけられるように支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理の出来る方は、自分でお金を使って、買い物などに出かけます。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族、兄弟への手紙のやりとりをしている利用者さんもいます、又電話はいつでもかけられる様、要望があれば連絡をとってます。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居住空間の配慮は、利用者さんと職員で築き上げ、装飾、季節感、色彩等に配慮しています。生活空間温度は一年中適温を保っています。 | 高い天井と窓から差し込まれる自然光と適温の床暖房で、安らぎのある共有空間が作り出されている。壁には行事やお祭り等の写真や作品等が飾られ、ソファではテレビを見たり会話を楽しんでいる。一人用ソファが置かれ独りで過ごせるスペースが工夫され、居心地よく過ごせるような工夫をされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共同スペース内にソファを置いて利用者同士の話が出来る場所を確保しています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自室の使い方は個人の個性を生かし、家庭で使用していた、家具や位牌等の持ち込みにて、本人が安心して暮らせるよう配慮しています。 | 居室には使い慣れた筆筒や行李、位牌、テレビ等が持ち込まれ、行事や家族の写真、カレンダー、植木、生花等が飾られ、鏡、加湿器、箒等が置かれ、一人ひとりの生活スタイルに合わせて居心地良く過ごせるよう配慮されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 設計にあたっては、手すりや特殊浴槽など、安全かつ快適な生活が送れるようにしてあります、スペースも十分ゆとりをもって確保されており、車いすでの移動でも支障をきたさないよう配慮しました。 | | |